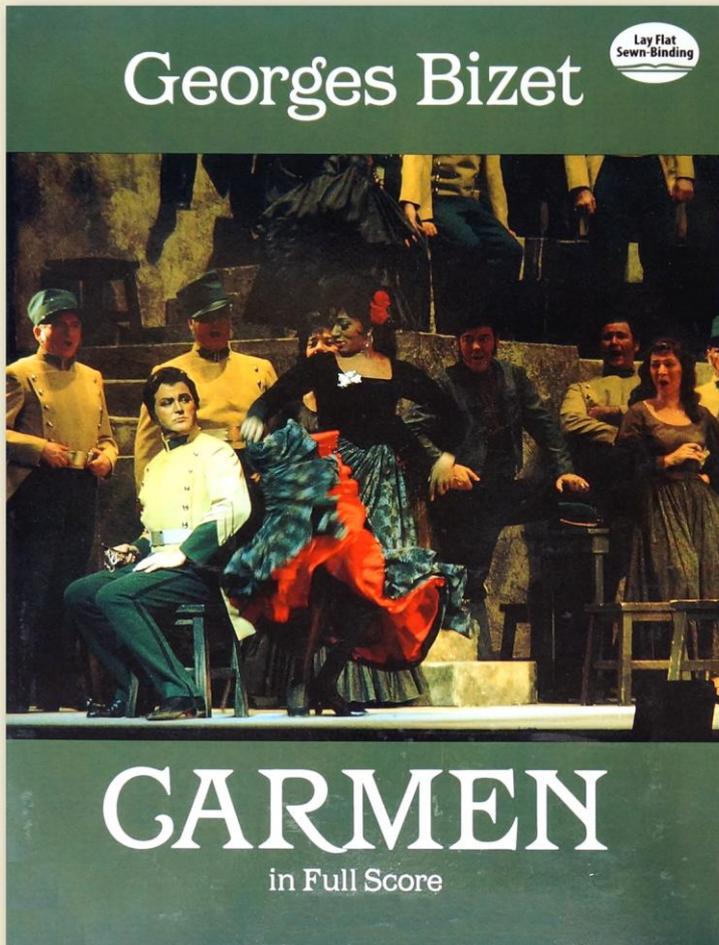


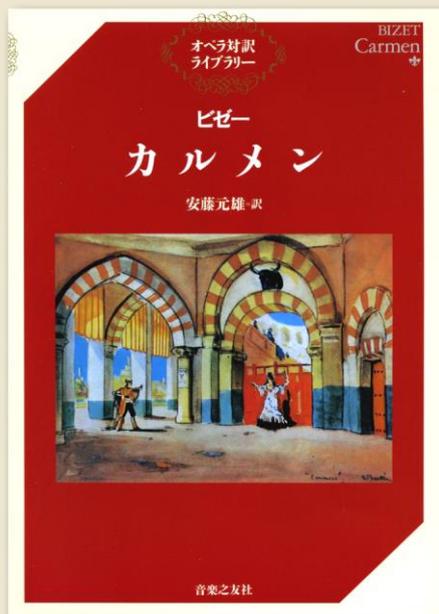
ジュラシック・トーク



●カルメンの「版」について

今回演奏する「カルメン」は「ニューフィル・バージョン」、オーケストラために編曲された組曲版だけではなく、オペラの全曲盤から抜粋されたものもあります。そのオペラ版の楽譜には何種類かのものがあるので、それについてちょっと調べてみました。資料はドーヴァー版（⇐）とアルコア版（⇓）のフルスコア・・・

CARMEN



・・・そして、アルコア版のセリフと歌詞を全部掲載した、日本語の対訳本（⇐）です。

ビゼーの最後のオペラ「カルメン」は、今でこそ何の疑いもなく「オペラ」という呼び方をされていますが、そもそもは「オペラ・コミック」というジャンルの作品でした。つまり、歌の間にセリフが入るといって「歌芝居」ですね。パリの「オペラ・コミック座」からの依頼で作曲されたこの作品は、もちろん初演もその劇場で 1875 年 3 月 3 日に行われました。しかし、この初演は大成功とは言えないものだったようです。最大の要因は、多くの人々が「オペラ・コミック」というものに求めていたものとはかなり隔たりのある、そのあまりにリアルなプロットだったのでしょう。舞台上で殺人が行われるなど、後の「ヴェリズモ・オペラ」にもつながるような過激な内容には、当時の聴衆は付いていけなかったのかもしれない。

それにもかかわらず、ウィーンの宮廷歌劇場の支配人は同じ年の 10 月 23 日に自分の劇場でこの作品を上演したいとビゼーに依頼します。ただ、その際に「オペラ・コミック」のセリフの部分を、レシタティーヴォ（オーケストラをバックに、メロディのついたセリフを歌うもの）に書き直し、「グランド・オペラ」として上演することを勧めました。

しかしビゼーは、初演の後に持病の咽頭炎の悪化もあって 6 月 3 日に亡くなってしまいます。そこで、このウィーンでの上演に際しては、友人のエルネスト・ギローが改訂作業をおこない、セリフの部分がすべてレシタティーヴォに直されたバージョンが使われました。この楽譜はすぐにフランスのシューダンス社から出版されます。以後、「カルメン」はこの「グランド・オペラ」という形によって世界中で演奏されることになりました。現在では、そのシューダンス版に由来するドーヴァー版が、容易に安価で入手出来ます。後にギローはオーケストラ用に「第 1 組曲」と「第 2 組曲」を編集し、同じ出版社から出版します。

ウィーンでの上演はドイツ語で行われました。ドイツ語圏のオペラハウスが、外国語の作品でもドイツ語で上演するという伝統はごく最近まであったようですが、レシタティーヴォ版であったからこそ、そのような使われ方にも対応できて、フランス語圏以外でのファンも獲得できた、という意味では、このギローの仕事は評価できなくはありません。しかし、ギローは全てのセリフをレシタティーヴォに移し替えたわけではありませんから、作品が本来持っていたドラマ性は、かなり希薄になっていたことは否めません。そこで、ドイツの音楽学者フリッツ・エーザーは、あくまでビゼーが「オペラ・コミック」として書いた楽譜に忠実なものを再現するというコンセプトの元に「原典版」の校訂を行い、1964 年にアルコア社（現在はベレンライター傘下の傘下にあります）から出版しました。これが「アルコア版」です。

さらに、この「アルコア版」のセリフを全て忠実に盛り込んだ対訳本が、音楽之友社の「オペラ対訳ライブラリー」のシリーズとして出版されています。

「アルコア版」が出版されて以来、「カルメン」の上演やレコーディングに際しては、急速に「ギロー版離れ」が進みます。たとえば、2 種類のスタジオ録音を残しているあのカラヤンは、1963 年に DECCA のスタッフによって RCA のためにウィーン・フィルを使って録音したものではありませんが、1983 年にベルリン・フィルとともに DG に録音した時には「アルコア版」を使うようになっていました。

ただ、注意しなければいけないのは、「アルコア版」はあくまでオリジナルの形に限りなく近いものではあっても、それを上演する際には様々な事情でカットされてしまう部分が出てくるのは避けられないということです。先ほどの対訳を読んだだけでも、今まである程度このオペラを体験している方であれば、オリジナルのセリフの中には今まで知らなかった情報がたくさんあることに気づくはずですが、ドン・ホセ（もちろんフランス語として発音すれば「ドン・ジョセ」となります）が軍隊に入った経緯とか、ミカエラの素性など、「ギロー版」では最初からカットされているので仕方がないとしても、「アルコア版」によるものでさえ、カットされたりします。実際に DVD などに出ているものの中には、もちろんすべてのセリフを忠実に語らせているものもあるのですが、大半のものは大なり小なりのカットがあるのは当たり前だというのが、現状です。

